

- ・「被災者が主人公の復旧・復興」を
- ・“クリニック探検隊”来たる
- 「セクシュアリティと人権を考える会」  
との交流
- ・私のオフタイム  
～「デコ」とお昼寝～

## 「被災者が主人公の復旧・復興」を支えたい

村口 至先生 坂総合病院名誉院長

東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター世話人・事務局次長



2011.4 セネ浜漁港

3月11日の東日本大震災は、1000年に1度と言われ歴史に深く刻まれるものとなりました。震災100日を経ても、いまだ被災者たちは命の危機や生活の困難さに直面しています。この間医師として医療支援のための活動をしながら、現在「被災者が主人公の・・・」を求める住民活動「東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター」に参加しています。

最近、目を離せない話題は漁業「特区」の提案です。県漁協の木村会長が「なぜ！あれほど怒るのか」、村井県知事が「なぜ突っ走るのか」皆さんはどう思われるでしょうか。先日、この真相を解くために、石巻の万石橋から海

岸線をうねりながら岬の奥にある美しかったはずの小湊浜の木村会長宅を訪ねました。会長は、倉庫の2階に案内してくれ、奥さんと2人の孫を紹介してくれました。津波で嫁と孫1人と家を失ったことから話が始まりました。「マスコミは“独占的漁業権”と言っているが」の問いに対して次のように語ってくれました。ここで問題になっているのは、湾内の養殖や浅海漁業のことであること。その漁場は、先祖から何代にも亘って漁場の整備や海水の調整など行ってきたところであること。船の航路を設定し湾内を漁業組合が管理してきた。そして豊漁のときも不漁の時も毎日、朝、夜となく手を尽して育てた場所であることを訥々と話されました。

そこに、大震災、津波で荒れた浜の再起を掛けて立ち上がろうとしている時に、突然、株式会社の参入の話が、事もあろうに宮城県知事から出されたのです。事前に当事者である漁民に相談も打診もなくです。株式会社が如何に景気に敏感に行動するかは、県民は経験済みのこと。今回の震災でも、多賀城のソニーは、工場の再建を図らずに、280人の県外配置転換と150人の解雇通告し事業縮小に入りました。この会社は、多賀城市が工場に有利な条件で誘致を図った第1号のはずです。そんな例は、今までも県内にたくさんあり、漁業者もかつて痛い目にあっています。銀サケ養殖に株式会社が参入したのですが、不漁続きに遭い撤退しました。その後、漁場の再整備に漁師達の大変な苦労が残されたのです。宮城県の復興会議が、東京で行われ、知事がそのたびに上京していますが、そのメンバーの中に宮城県人は3名しか入っていません。しかも、工場縮小撤退するソニーの副社長もそのメンバーということでした。

漁場は海の男たちと、浜で待つ女たちの協同で成り立つ産業です。魚の捌きから始まって水産加工場の主役は女たちです。「特区」問題の行方は、男たちと2人3脚で生きてきた女たち、そして消費者・国民みんなの関心事です。いまや平行線のまま・・・、より良い着地点は見えて来そうにありません。



2011.6 気仙沼漁港

## “クリニック探検隊” 来たる

～「セクシュアリティと人権を考える会」との交流～

看護師主任 竹田理恵



去る6月15日、「セクシュアリティと人権を考える会」のメンバー6名が“クリニック探検”に来ました。昨年に引き続き2回目の開催です。この会は、宮城学院女子大学・生活文化デザイン学科の浅野富美枝教授が主催しています。1999年大学内で起きたセクハラ事件が裁判沙汰になったことは良く知られています。女子大学ならではの学生対策が求められているのでしょうか。

浅野先生から会の紹介と、とくに会が発足した背景について語られました。性に関する知識不足や自己主張ができずにセックスし望まない妊娠に直面する、その結果退学に追い込まれ自らの将来の選択肢を狭めたり、また中絶を余儀なくされ心身に深い傷を負った女子学生がいたこと。最近広く周知されてきた「デートDV」の

被害に遭っている女子学生も少なくないこと。そのような状況から、学内の教職員有志が活動を模索し会が発足したとのこと。学外の市民とも連携して活動しており、昨年度からは毎月何らかの勉強会を開催しているそうです。当日唯一参加した男性は、東北HIVコミュニケーションズの会の方でした。

院長が、クリニックの目指す「性の健康」を創るための医療、患者さんへの健康支援の取り組み、医療現場での現状と具体的なケースについて紹介しました。学生さん達からは、現場の状況を聞いて驚きの声があがり、今まで聞いたことがあっても実感がなかったが、現実に起きていることなのだ・・・、感想が述べられました。性に関する知識を得ることの大切さを感じた、それができていれば自分自身の身を守ることができたのではないかと、中絶を受けた女性に寄り添う男性についても話がでて、男性側の意識は見えにくい、今後男性への働きかけも必要なのではないか、などの意見も出ました。

最後にクリニック内を案内し、性行動の結果を背負った女性がどのような環境で性と向き合っているかを感じていただきました。自分自身の性についても自己管理が必要という意識が芽生えたのでしょうか、今度受診しますと言った学生さんもいました。

性に関することは、なかなかオープンに語られず、よく知らないままに性行動に及んでいるために、その結果を背負ってしまう女性がたくさんクリニックには来ます。正しい知識を少しでも持っていれば自分の身体を守る事ができたのではないかと思われます。セクシュアリティや人権、男女の関係性・ジェンダーについて改めて考える機会をいただき、私たちスタッフにとっても大変有意義な時間となりました。



## 私のオフタイム ～「デコ」とお昼寝～

医事担当 川本陽子

私が最近ハマっていることは、いろいろな物にデコ（デコレーション）することです。中学生の娘が私の携帯電話にデコってくれたのがきっかけで、きらきらと綺麗に仕上げてもらった携帯を見て、思いのほか嬉しくなりました。その後、娘が使わなくなった材料がたくさんあることを知り、最初はもったいないという思いから始めてみたのですが、いつの間にか熱中している自分に気がつき、今では時間をかけて丁寧に作品を作る達成感を楽しんでいます。

また、もう一つのささやかな楽しみはお昼寝です。仕事と子育ての両立は充実したものでありますが、正直疲れを感じることもあります。そんな時は、頑張る自分へのご褒美というような気持ちで30分くらい横になり、スーッと気持ちよく眠るのです。たまに座ったまま器用に眠っていることもあり、自分でも驚きます・・・。

子どもたちもどんどん成長し、以前に比べて自分の時間が持てるようになりました。これからも自分なりに楽しみながら、有意義な時間を過ごしていこうと思っています。



## 臨時休診

8月26日(金)～31日(水)は、第30回日本思春期学会ならびに第63回日本産婦人科学会参加の為休診となりますのでご了承ください。お盆期間中は休まず診療いたします。

## 編集後記

震災からもうすぐ4ヶ月が経過しようとしています。福島原発事故収束への道のりはまだ遠く、政治は混迷を極めていきます。先の見えない被災者の方々のことを思うと胸が痛みます…。



発行元：村口きよ女性クリニック  
<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>  
 e-mail: con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp